

【給食協会賞】 幸せとは・・・

桜井小学校 田中 桃那

私は給食が大好きだった。みんなで笑い合ってた。話しながら。笑顔いっぱい。

「おいしいね。」
と友達と話かけて。そしたら友達も返事してくれる。「うん、おいしい。」

と。こんな日々がずっとずっと続くと思い込んでいた。でもそれは一年半ほど前までだ。この日々が一变してしまったのは。

私が四年生だったとき、後半ごろ。新型コロナウイルス感染症かくだい防止のために学校が休校した。じしゆく中は不安でしかたがなかった。学校休校がかいじよされた時にはもう私は五年生になった。去年から給食は、だまって食べるようになってしまったのだ。今までの日々は何だったんだろうと何度も思った。あんな笑い合ってた給食は何だったんだろう。友達の笑顔も、私の笑顔も。消え果てた、笑顔。壊れた、給食の日常。こんなはずじゃなかったのに。本当なら、本当なら。本当ならいつも笑い合ってた。本当なら、本当なら。本当ならがいつも見えた給食が。全てが残酷にうばわれたよ。うな気がして泣きそうになる。そんな日々。私は気が付いた。一つは何気なく過ごしていた給食が。こんなにも幸せだったこと。二つ目は笑顔を取り戻すために、自分も役に立ちたいと思ったこと。そんな思いに私は執行委の一員として第一歩をふみ出し

た。一生けん命。一生けん命に。こんな悲しい日々も変わらない。できる、できないじゃない。やらなくてはいけなことがあ。可能じゃなくても。給食でしゃべれなくても。笑顔が目の前に見えなくても。苦しなくても。こんな日常をもっと明るくしたいから。できないと決めつけずに、きつと道があると信じて。

「前を向こう。つらくても。笑顔になれなくて苦しむ取り戻したい。私たちが笑顔にしてくれた給食のよみに。」
悲しみに打ちのめされている誰かにささやいた。きつと未来を明るくする。この悲しい日常を一日でも早く終わらせるために。私はそんな思いを五年生からずつとずつとぶつけてきた。これからも。ずつと変わらない。笑顔いっぱいの未来で・・・ありますように。